

高 陽 の 森

令和5年度 特別の教育課程の編成の方針等について

1. 特別の教育課程の編成の方針(高石市)について

(1)本市が実施している「英語教育推進事業」に基づき、外国語活動・外国語科において小中学校9年間を見通して系統立てた指導を行っている。小学校低学年において「高石っ子 グローバル コミュニケーション科(TGC)」を市内全域で実施し、第1～6学年の6年間の外国語活動・外国語科の教育課程を編成し、英語活動を推進する。令和2年度以降の教育課程の基準によらない部分は次のとおりである。

○ 第1学年～2学年の「TGC」

ア 第1・2学年においては、生活科の授業時間を11時間、音楽の授業時間を6時間削減し、合わせて「TGC」の授業17時間に充てる。

イ 「TGC」の評価については、筆記試験等を行わず、行動観察、自己評価等を活用した評価を行う。

(2)学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

小学校における外国語活動が、学習指導要領において、実施されるよりも10年以上早くから、ALTの予算を市費単位で用意し、小学校低学年においても外国語活動を実施してきた。平成25年度より教育課程特例を受け、第1～4学年において、「外国語活動」を市内全域で実施し、第1～6学年の6年間の外国語活動の教育課程を編成し、低学年から英語に親しみ、学ぶことができる教育課程を編成する取組みを継続実施し、子どもたちに「使える英語」を身につけさせ、コミュニケーション能力の素地を育成したい。

特別の教育課程の実施状況について

高石市立高陽小学校

○自己評価（外国語活動についての児童アンケート(1・2年)より）

英語を勉強するのは楽しみである



英語の勉強は役に立つと思う



外国の人と英語を使って、話せるようになりたい。



○学校関係者（教職員を除く）からの意見

児童が授業をととても楽しんでいることがよく分かります。

言語能力の育成においては、子どもたちが「話したい」と思えるような必然性のある学びを大事にしてほしい。

○今後の課題

低学年では、外国語活動を楽しく取り組んでいる様子が数値から伺えるが、高学年にかけて、知識を知識だけに終わらせずにコミュニケーションに生かすこと、英語を楽しもうという発達段階に応じた子どもの意欲を引き出す授業づくりを大切に行っていく。